
にゅーりっちらいふ！

Peta

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ゆーりつちらいふ！」

【ZPDF】

Z6862D

【作者名】

Peta

【あらすじ】

親父が宝くじを当たった。その日から俺、朝比奈憂太の人生は変わった。夢の成金生活……なんて良いものならよかつたのに……！宝くじが当たつてから8年後。朝比奈憂太（18）の夢？のような成金生活です。

「「ウチヤハニ。」

夕暮れの中、彼女は呟つた。

「わたしね、こっしょり およめやんに なれないのかなあ。」

「どうして？」

彼女の突然の寡白に幼い俺は戸惑つた。

「だつてね、おとうやんが『 は いっしょに よめにせ ださん』つていつてるの。」

「ふーん。」

「ねえ、「ウチヤハニ……」

「じゃあ、ぼくが ちやんをおよめたんにすー。」

我ながら大胆な事を呟つたものだと瞬く。嫁にせむらなこと呟つて いる父親から娘を貰おうだなんてや。

「ほんとー?」

「うん。」

「うちのおとうやん こわいよ?」

「だいじょうぶだよ。」

「『 こりかづく おとうやな ちやかで はうのすにしだせぬ』とか『ほんとうで はらわた ぶちまけてやる』とかいつてねよへ。『だ、だいじょうぶだよ。ぼく つよくなるからー。』

「じゃあわたし、ユウカちゃんのおよめやんになるねー。」

そう言って彼女は笑つたつけ。それがいつの事で、誰との会話だつたのかは覚えていない。……今思うとシッ パリハリ満載だ。だけど、彼女といふと楽しくて嬉しくて 思えばそれが俺の『初恋』だったのかも知れない。

・
・

￥〇・茜色の思に出（後書き）

いつも、ぺたです。性懲りもなくまた連載です。完結……出来たらいいなあ。

とまあ、『冗談？』は『れくらい』にして、後書きでは裏話や製作秘話等を語つていこうと思ひます！

それではさっそく。

タイトルの『にゅーりつちりこふー』ですがnew「rich」／成金、life／生活、といふことで『成金生活』ですね。……なんのひねりもありません。

とまあ、毎回こんな感じでこきます。暇な方はお付き合て下さい

（――）三

最後にここまで読んで下さった貴方に最大の感謝を。できれば感想・評価の方、お願いします。

【2008/02/17】

¥1・鈍色の成金生活（朝）

「…………太様、憂太様。」

「ん…………。」

深い微睡みの中にいた俺を誰かの声が連れ戻した。懐かしい夢を見た気がする…………。

「憂太様、朝です。起きて下さい。」

「…………。」

あれはいつだつたつけ…………？駄目だ。眠くて考え…………

「憂太様…………よし、今なら……………」

囁かれた何やら不穏な言葉に、俺の意識は一気に覚醒した。

「殺つた！」

目を開けて最初に見たものは、振り下ろされる腕と手に握られている鋭い何か。

「させらかつ…………」

咄嗟に枕の下から週刊誌を引っ張り出し、顔の前に突き出す。『ドスツ』という鈍い音と突き刺さる感触、貫通して姿を現した鋭い刃先。

「…………おこ。」

「あら、憂太様おはよげござります。いい朝ですね」

そう言ひてにこやかに微笑むのは我が家に仕えているメイド、草壁瑠璃。若冠20歳にしてなぜか我が家でメイドをしている。目の前にサバイバルナイフ突きつけられていい朝なわけあるか。

「何してんだ。」

「なにって、憂太様があまりにも起きないので……いつそ永遠に寝かせてあげようかと。」

アホか！そんなんで殺されてたまるか！

「丁重に断る。」

「そうですか、それは残念です。」

そう言ひてようやく俺の田の前にからサバイバルナイフを引っ込んだ。残念つてどうこういひ口上だこのやうに。

「それでは田那様がお待ちですので、食堂の方へお越しください。」

珍しいな。親父が早いなんて。

「ああ、わかつた。」

瑠璃はお辞儀をして俺の部屋から出していく。ドアの向こから『仕留めそこなつた』とか聞こえてきたがいつもの事なので放つておくことにした。

部屋を出て、やたら広い我が家廊下を渡り食堂へと向かう。俺の斜め後ろでは瑠璃が一定の間隔で着いて来ている。

「憂太様、今後はナイフを使う前に起きて下さいね。私だって憂太様を傷つけたくないんですから。」

「いや、ナイフ使うなよ……」

あんなん、傷つける程度じゃ済まねえよ。だいたいサバイバルナイフ持ったメイドなんて聞いたことねえ。

「ところで、今日は何か予定入ってるのか?」

「あら、デートのお誘いですか? 残念ながら今日もお仕事が……」

「お前じゅねえよ、俺の予定だ!」

瑠璃は不機嫌そうな顔で舌打ちしながら手帳を確認しだし

「今日の予定は在りません。存分に遊んできたらいいじゃないですか。……私が仕事してる間に!」

……

そう吐き捨てた。

「長い休暇をくれてやるつか?」

「さあ、旦那様がお待ちですよー行きましょうー」

慌て取り繕う瑠璃。ああ、なんでコイツ雇つてんだろ……？まあいいか。

頭に浮かぶ考えを一時放棄。取り敢えず、親父の待つ食堂に向かうこととした。

さて、なんで俺が専属のメイドなんか持つているのかといふと（正直、思春期の少年としてはいろいろと困る）、無駄に敷地面積の広い我が家『朝比奈家』は、今となつては有名な『（株）朝比奈システムネットワーク』の社長であり、つまり俺は社長の息子である。

あれは8年前のコトだ。

親父が宝くじで一発（3億）当てた。それだけでも十分なのだが、それともとにして自分で事業を立ち上げた。それが見事に成功、急成長し順調に傘下を増やして今では『朝比奈グループ』と言えば知らぬ者はいない程になつてしまつた。お陰で俺も不本意ながら金持ち社会にデビューする事になつたわけだ。

「憂太が、おはよつ。」

そして俺の目の前にいるのが（株）朝比奈システムネットワークの社長、朝比奈憂一。

「…………ああ。てか、珍しく早いな。」

「まあ、徹夜でオンラインゲームやつてたからなあ。」

残念ながら俺の父親だ。親父のバカな話は聞き流す事にして俺は親父の向かいに座り並べられている朝食を食べ始めた。

我が家の中は、『食堂』と名前はついているが、普通のダイニングキッチンである。立派な厨房や、バカみたいに広いパーティー会場などもあるにはあるが、普段は使わない。貧乏サラリーマン生活が長かったせいか、親父は庶民的な料理や、空間を好む。それなら普通の家で良いじゃねえか！という話だが、そこは見栄やら世間体やらがあるのでどか。

「瑠璃ちゃんも一緒に食べれる？」

さつきまでオンラインゲームについて熱く語っていた親父はいつの間にか瑠璃に朝食をとるように促している。

「いえ、結構です。使用人の私が主である旦那様や憂太様と同じ食卓を囲むなどあつてはなりません。」

「…………とか言いながら何座つてんだ。」

「旦那様が一緒にと仰るのですから仕方ありませんよ」

とか言いつつ俺のおかずをつまみやがった。ホントにコイツだけは

…………！

「ときに憂太。」

瑠璃と視線で火花を散らしていると、唐突に親父が話しかけてきた。視線は瑠璃に合わせたままぶっきらぼうに返事を返す。この勝負、先に目を逸らしたほうの敗けだ……！

「なんだよ。」

「彼女はいるのか？」

「はあ…………！？」

唐突な質問に思わず親父の方を向く。しまった、目を逸らしてしまった！隣で瑠璃が見下すような顔で見つめてくる。…………このやうう！

「何言い出すんだよ、唐突に。」

「いるのか？いないのか？」

「いなide…………」

「まあ、憂太様のような甲斐性なしに女がいるはずないですからね

「

くつ、瑠璃のやつ、わらつと毒を吐きやがる。減給するやうにのやうう！

「いないのなら問題ないな。よし、今日は早く帰つてこいよ。大事な話があるから。」

「大事な話？なんだそりや。」

「内緒」

何が『内緒』だよ、気持ち悪い。それにしても一体何の話だらうか……まあいい、帰つてくれば分かる事だ。

「セヒト……」

そろそろ学校に行かないと遅刻してしまつ。鞄を手に取り立ち上がる。

「それじゃあ、行つてくる。」

「ああ、行つてこい。」

「いってらっしゃいませ。」

普通、使用人つて玄関まで来るもんぢやないの？座つて俺の
おかげ食つてるし。まあいいか。
そんなこんなで俺は割りといつも通りに、この無駄に広い我が家を
後にしたのだった。

・
・

¥1・純色の成金生活（朝）（後書き）

いつも、ぺたです。といつわけで一話です。なんだか設定紹介的な話です。

では裏話といつかキャラ紹介。

今回は主人公、朝比奈憂太くんです。

名前／朝比奈 憂太

ミミ／アサヒナ ユウタ

歳／18

性別／

身長／182cm

体重／67kg

血液型／A

誕生日／4月25日

髪／淡い茶髪のマーティアム

瞳／淡い茶色

職業／高校生

とまあ、こんな感じです。彼は基本的に面倒臭がりで、楽観的な人です。自分に振りかかる出来事も『めんどくせー』とか思いながら『何とかなるだろ』と考えています。

一話はかれの家庭環境メインですね。父親は朝比奈グループの会長で彼は社長子息です（笑）では、今回はこの辺で。

最後にここまで読んで下さった貴方に最大の感謝を。できれば感想・

評価の方、お願いします。

【2008/02/18】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6862d/>

にゅーりっちらいふ！

2010年10月22日13時49分発行